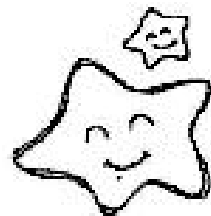


QSK にぬふあぶし

No.305

ね
子の方向の星(北極星)



世にも"異色"なる多目的小屋、建設中(南風原てるしの)

コロナ禍では、ソーシャルディスタンスの物理的な確保も課題のひとつです。
就労支援施設『てるしのワークセンター』では、利用者さんたちの活動スペースを広げるため、敷地内の温室のなかに、多目的用途の「小屋」を建設中です。

他に適当な場所もなかったの、たまたまそこにあったガラス張りの熱い温室のなかに建物を造ろうというこのアイデア、もちろん前例を聞いたこともなく、自分たちで思いついたこととはいえ、「大丈夫なのかな?」というのが最初の、当然すぎる本音でした。沖縄の照り付ける夏の日差しをイメージするとくらくらしてきます。(サウナになりはしないか?)

ところが、そうした心配も含めて諸々の事情を設計施工会社に相談してみると、拍子抜けするくらい「いけそう」な感触を得ることができたのでした(宇宙で使う断熱素材を活用します)。そのうえコンセプトとしての素敵なプラスアルファももらうことができました。

空気の美味しい家です。漆喰と、南九州産の特別の木材を使い、シックハウスのような不安がなく、ひんやりした木の肌触りが心を癒す家。

5月11日には上棟式も終え、現在も着々と作業が進んでいます。お楽しみに。

完成したあかつきにはレンタルスペースとしての活用も予定していますので、近くにお立ち寄りの際にはどうぞ覗いていってくださね。



「しびらんか紫微鸞駕」は、北極星を神格化した北極紫微大帝に家を守ってもらうための願いを込めた言葉だそう。防火の護符とされ、棟梁が上棟式の当日にてんかんしふく「天官賜福 紫微鸞駕」と書く地域もあります。

みんなねっと総会がオンラインでありました

6月15日(水)、全国精神保健福祉会連合会(みんなねっと)の総会がオンラインであり、各都道府県からの会員や関係者が“一堂”に会しました。

ふだんはなかなかお互いに顔を合わせることのない遠方の会員同士が、画面越しとはいえ、いながらにしてつながることができるのは、それだけでも大変有意義な機会と感じました。けれど、それだけの人数を遠隔で取りまとめることはやはり簡単ではなく、あえて困難にチャレンジした事務局の努力には敬意でいっぱいです。

それぞれが不慣れな状況でも、一定の議論がかわされ、また「会員の減少」といった全国共通の深刻な状況があらためて共有される場ともなりました。



9月開始! リモート版「家族による家族学習会」のお知らせ

「家族による家族学習会」は、ひとりひとりがふだん抱えているさまざまな思いを、同じ家族という立場同士で分かち合い、学び合い、支え合うためのプログラムです。

全5回(9/10・10/8・11/12・12/10・1/14)いずれも土曜日です

時間: 13時~16時

内容: テキストを使用し、話し合いなどを通して統合失調症について学びます

場所: オンライン(ZOOM)

定員: 10名程度

申込締切: 8月12日(金)

参加対象者: 統合失調症などの精神疾患のある方をご家族に持つ沖縄県在住者で、全5回を通して参加が可能な方。



※参加費やお申し込み等の詳細については、[沖福連のホームページ](#)をご確認ください!

お問い合わせ: 沖縄市精神療養者家族会「おあしすコール」(090-6866-2039)

家族会 探訪



【ゆいハート家族会（豊見城市）】

日時：現在は不定期

場所：福祉作業所ゆいハート

☎ 098-996-1248（宮里さん）

『ゆいハート家族会』は、豊見城市にある福祉サービス事業所の家族会です。かつて、精神疾患の利用者が通う『ゆたか作業所』と、知的障がいの方の通う『なごみの家』が別々にありましたが、自立支援法の施行により3障がいが一元化、一部統合されるかたちで現在の『福祉作業所ゆいハート』になりました。その作業所に通う利用者のご家族が、ゆいハート家族会のメンバーです。



前会長の高安さんと、最近バトンを受けて新会長になったという金城さんをはじめ、関わるみなさんからお話を聞きました。

「会員の高齢化」や「コロナの影響」といった、多くの家族会が直面している同様の課題がここでも聞かれて、実際に、以前と比べていろいろもどかしいことが増えたということなのですが、それでも印象に残ったのは、お話をしてくれたみなさんの、とても元気でパワフルな姿でした。

コロナ以前を振り返ると、たとえば毎年、市から助成金を得て映画の上映会を催していました。家族同士でお泊り会を企画したり、他市町村家族会との交流会があったり、福祉事業所としても地域の方を大勢まねいた新春交流会など、活発でにぎやかな活動を行なっていました。

コロナがおさまったら「またやりたい」と語るみなさんの表情は前向きで、目の前に課題は多々あれども、「ぜんぜん負けてないな」と思わせられました。

金城さんは、精神と知的と両方の家族が混在している、ゆいハートならではの難しさをお話していました。それぞれの家族に、それぞれの家族の悩みがあって、障がい種別が異なるとお互いのアドバイスがいまひとつ的を射なかったり、必要とする情報が異なったりします。(次のページへ)

(前のページから)

会長という立場で金城さんが思っているのは、ひとつの家族会のはずなのに、実質いまはふたつに分かれているように感じられる、精神と知的の家族たちを、あらためて本当の意味でひとつにしていこうとされています。

もしかしたら、「すみわけ」のようなことが無難なのかも知れませんが、それでも「親なきあと問題」のような共通の関心もあります。とはいえ、同じ障がい同士だったとしても、当たり前のことながらひとりひとりの体験はそれぞれに違ってきますし、なにより特に問題が解決しないとしても、ただ集まってしゃべることが人を元気にするというのを、今回お話を聞きながら自然と笑顔になっていくゆいハート家族会のみなさんを見ていて強く思いました。

70歳になったので会長を^{しりぞ}退いたという高安さんの「人はしゃべらない」という言葉が、家族会活動の本質を示しているように感じました。(増山)

“一神教と国家、また人間の幸福についての考察”

イスラム法学者が書いた、イスラム的な考え方についての本である。

日本で育ち暮らす私たちは、たいていいつでも「他人の目」に対して無頓着でいられない。なにをするのでも他者からの評価を気にして、自分が納得できるだけの承認を求めている。自分自身の存在を認めることを、世間からの承認という「条件付け」によるならば、その人は隣にいる他人に対しても同様の眼差しを向けるのではないだろうか。

イスラムの価値観では、すべての存在は神によってあらかじめ承認されていて、それ以上でもそれ以下でもない、というシンプルな話。

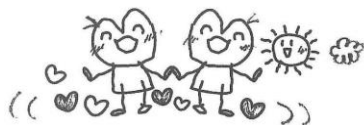
イスラム教だけでなく、一神教の信仰とは本質的にそういうものだと感じる。

日本人の多くが他者評価や世間の目を気にし過ぎて悩むのは、私たちが神様を持っていないせいかも知れない。(増山)



『みんなちがって、みんなダメ』
中田孝著 (KKベストセラーズ)

賛助会員、読者の皆さま



公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会

会長 山田 圭吾 (公印省略)

賛助会員(2022年度)継続・加入のお願い

拝啓

皆様、いかがお過ごしでしょうか？ 日頃より温かいご声援をいただき、あらためて厚くお礼申し上げます。本広報紙『にぬふあぶし』についても、さまざまなお意見をいただくようになりました。今後とも記事をより良くしながら、角度の広い情報発信を続けていきたいと考えておりますので、引き続き寛大な心持ちで見守っていただければ幸いです。

さて、沖福連の活動は、皆様の賛助会費やご寄付によって支えられております。今後とも変わらぬご支援ご協力をお願いいたします。

新規に会員になって支えてくださる方も、心よりお待ちしております。

いつもお手数ご負担をおかけして誠に恐縮ですが、2022年度賛助会費の手続きをどうぞよろしく願いいたします。(赤色の郵便振替用紙をご利用いただくと手数料がかかりませんので、必要な方はお申し付けください)

末筆ではございますが、ご多忙の折なにとぞお身体ご自愛ください。

敬具

賛助会費 (2022年度)	個人	1口: 2,000円
	団体・法人	1口: 10,000円

※オンラインによるクレジットカード決済でも賛助会費の払込みが可能です。
沖福連ホームページから「寄付・賛助会員のご案内」をご覧ください(右QR)。



【お問い合わせ・連絡先】

〒901-1104 南風原町字宮平 206-1 沖福連事務局 (担当: 増山)

電話 098-889-4011 FAX:098-888-5655 Email: terushino@castle.ocn.ne.jp

郵便振込口座 02020-0-37037 (加入者名: 公益社団法人沖縄県精神保健福祉会)

第78回精神保健シンポジウム・上映 施政権返還50年——未来への回想 国による隔離政策を考える

7/18 (月・祝)

会場:那覇文化芸術劇場
なは一と1F 小劇場

上映作品

「夜明け前のうた
消された沖縄の障害者」

10:30 開映/10:00 開場 入場無料

シンポジウムプログラム

13:15~16:30 資料代:800円

【第1部】「時男さんの国賠訴訟に連帯する」

伊藤時男(長期入院国賠訴訟原告)、藤井克徳(日本障害者協議会代表、日本精神衛生会理事)

司会:小浜日登美(自立生活センターインクルーシブ)

【第2部】「ハンセン病の国賠訴訟に学ぶ」

金城幸子(元ハンセン病違憲国賠訴訟原告)、平良仁雄(同)、山城紀子(ジャーナリスト)、沢知恵(歌手・ハンセン病療養所の音楽研究)

司会:高橋年男(沖縄県精神保健福祉会)

7/17 (日)

オプションツアー

定員15名 ※バスでの移動

【バスツアースケジュール】

12:00 ~ 那覇空港出発・昼食 ~ 沖縄本島北部
(私宅監置小屋を見学・関係者のお話など) ~
屋我地島(国立療養所沖縄愛楽園・資料館を見学)
~ 那覇に戻る

【お問い合わせ】沖福連(山田)

【主催】公益財団法人日本精神衛生会、「国による隔離政策を考える」実行委員会、おきなわ障害者人権センター

◎編集後記◎

朝ドラ『ちむどんどん』、主人公の兄が世間的に不評のようです。定職につかず、家族から金を借りたり盗んだりを繰り返し、うまい話に騙され、しかも悪びれることもない。「間違ったこと」ばかりしているように映ります。

いい加減で間違ったことばかり。ドラマなので誇張も目立ちますが、どうも「困った人」です。でもこういう彼がいろんな人に迷惑をかけながらのびのび暮らしているのを見ると、彼らをとがめてどこかへ排除する世の中よりは、ぜんぜん悪いことじゃないんじゃないかな、とすっかり感じたりもします。(増山)

編集:公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会

会長 山田 圭吾

〒901-1104

沖縄県島尻郡南風原町字宮平 206-1

てるしのワークセンター内

電話 098-889-4011 FAX098-888-5655

E-mail terushino@castle.ocn.ne.jp

発行:九州障害者定期刊行物協会

〒812-0044

福岡市博多区千代 4-29-24 三原第3ビル 3F

電話 092-753-9722 FAX092-753-9723

定価:10円(会費に含まれる)